

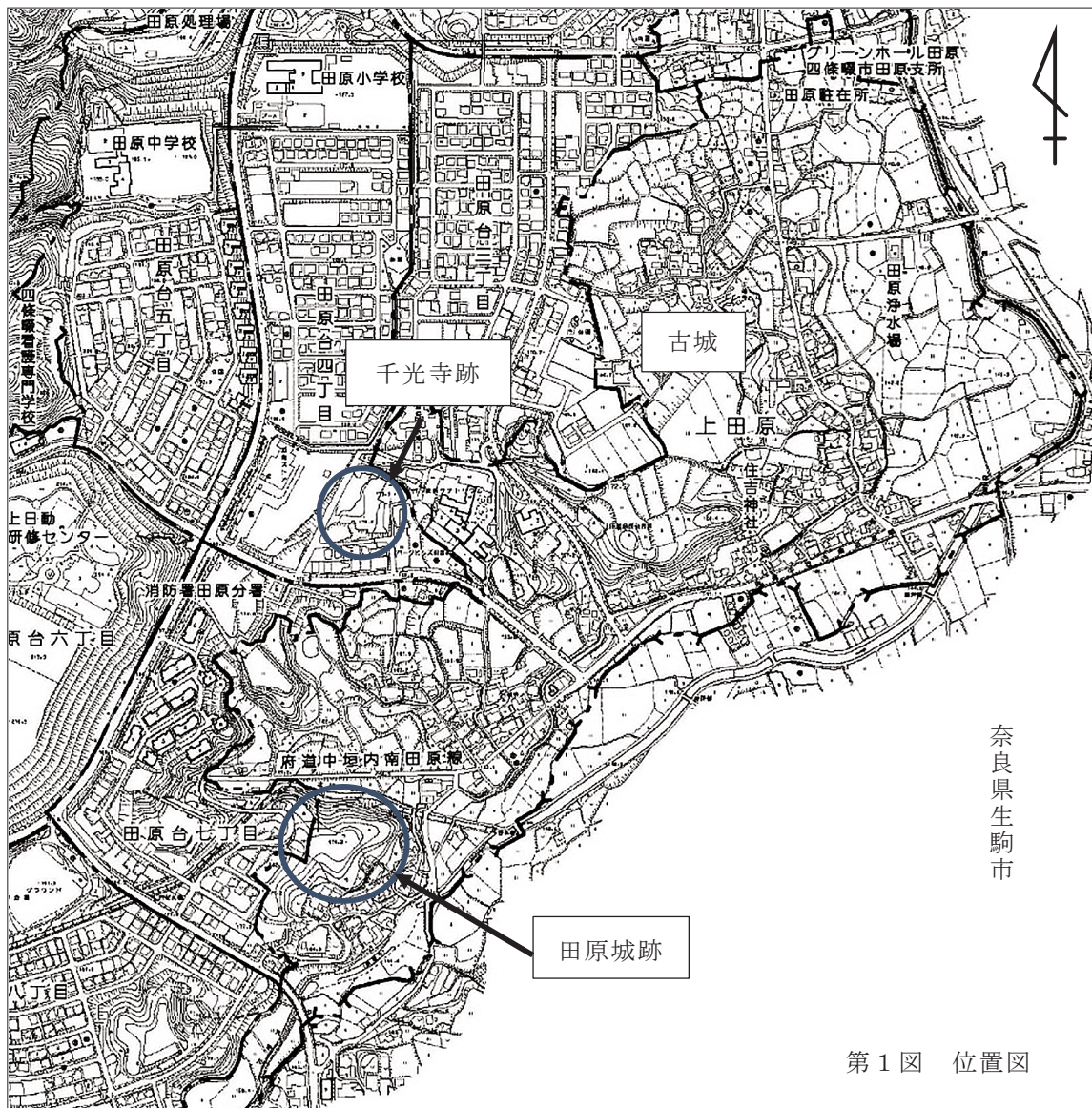
四條畷市域の支城 ―田原城跡・千光寺跡―

村上 始（四條畷市教育委員会）

1. 四條畷市域の支城

四條畷市は大阪府の北東部に位置し、市のほぼ中央を東西に連なる生駒山系をはさんで西側の平野部である西部地域と東側の盆地である田原地域に大きく分かれます。田原地域の東端は、北流する天野川を府県境として奈良県生駒市と接しています。

市内の支城跡は、田原地域の田原城跡、西部地域の岡山城跡、飯盛城の近隣に位置する清滝城跡、茶臼山砦、権現山砦、南野砦があげられますが、すでに消滅しているものや城郭遺構が残存していないものなど、その多くは詳細が不明です。



2. 田原城跡と田原氏

田原城跡は、飯盛城跡から南西約 3.8 kmの上田原の八ノ坪に所在し、生駒山系から東へ広がる標高約 174 mの丘陵上の先端部分に立地します（写真 1）。

城の範囲は東西約 100m・南北約 90m、本郭（本丸）跡は南北約 26m・東西約 7m の削平地で、麓との比高差は約 20 mです。城の北西と南西側に堀を設け、周囲には北谷川と天野川が巡り城を守っていました。

城の北方には清滝街道、麓に古堤街道が通じる河内国と大和国を結ぶ要衝の地に築かれており、飯盛城の東方を防衛する支城でした。

この田原城跡が所在する八ノ坪には、城郭に関連する小字「城ノ下」・「土居の内」・「矢ノ石」があり、小字名以外には「門口、一の門、二の門、三の門、隠井戸」等の名称が伝承されています。小字「矢ノ石」は城の北側で、そこには「殿様が本丸から矢の的にした」と伝わる巨石が残っています（第 2 図）。



写真 1 田原城跡（南西から）平成 10 年

城の構造は、本郭の南西側に深い堀切を設けて本郭と二の郭とを区切っています（写真 2）。この堀切を北西方向に進むと井戸郭に至ります。この郭は窪地となっており、2 基の「隠井戸」と呼ばれる井戸が存在します。城の南西の周囲が急崖な地に西砦（現在は畑地）を、生駒山系と地続きの西側に裏山郭（現在は道路）を配置しています。また南側の谷間は現在宅地となっていますが、階段状の地形から当時の居住地の状況が伺えます。

田原城跡については昭和 57 年度から 3 回の発掘調査を実施しています。その結果、この城から西方の飯盛城跡方向へ続く丘陵の北西と南西側に谷筋を利用した深い堀を設けています（写真 3）。また、南西側の堀を挟んだ「殿様屋敷」と伝承されている丘陵の発掘調査では、直径 1.6 m・深さ 7.2 m の石組井戸（写真 4）と掘立柱建物跡を確認しています。これらの調査から築城時期は 14 世紀中頃と考えています。



写真 2 本郭と二の郭を区切る堀切

城主に関しては、口伝の他に天保十五年（1845）の『上田原差出明細帳』に「一古城跡 字城山 老ヶ所 但シ凡式百年以前永禄之頃当地守護田原対馬守様御城跡と申伝候」と、貞享元年（1684）頃の『高橋孫兵衛家先祖書』に「高橋孫之進重友 妻ハ田原城主 何某之娘 民間ニ入郷士ト相成 文禄年中」と記された文献があります。しかし田原城を築いた人物については不明です。ただし、明治維新の際に廃寺となった真言宗千光寺に代わり法灯を継承し、現在墓地を管理している禅宗月泉寺には、江戸期以前の位牌が現存しています。それらのうち最も古いものは、延元元年（1336）銘であることから、鎌倉時代頃からの国人領主と考えています。

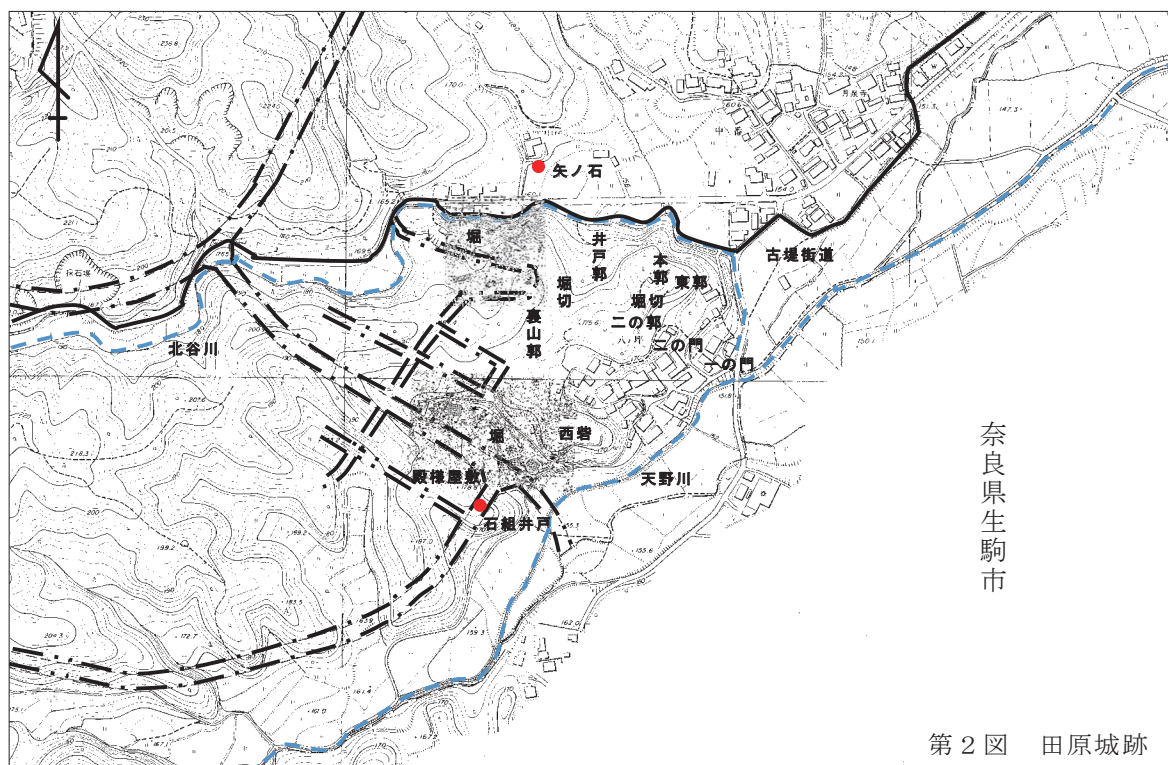
田原城は、現在の場所に築かれる以前の鎌倉時代（13世紀代）には約 800 m北東の正傳寺西側の台地小字「古城」にあったと伝えられており、田原氏もそこに居住していたと考えられます。



写真3 北西側の堀



写真4 石組井戸



3. 千光寺跡（田原城主の菩提寺と墓地）

千光寺跡は大字上田原に所在し、田原城主田原対馬守の墓と伝わる五輪塔などが存在し、寺の存在を伺わせる小字「寺口」という丘陵上に立地していました。

平成6年度の発掘調査の結果、寺跡とそれに付随する墓地を確認しました。墓地では、25基以上の五輪塔群と常滑焼の大甕を埋納した総供養塔と考える6号墓（12世紀末～13世紀前葉）などの墓を確認しました（写真5）。特筆すべきものとして、3号墓の副葬品と考える龍泉窯製の青磁袴腰香炉（大阪府指定有形文化財）が完全な状態で出土しました（写真6）。3号墓は重厚な埋葬方法から田原城主の墓と考えています。



写真5 千光寺跡（南西から）

寺跡においては、東西に伸びる長さ15.5 m・幅1.2 mの2列の花崗岩の石列を確認し、その断面観察から版築工法の土塀の基礎であることが判明しました（第3図）。遺物としては陶磁器類や青銅製懸仏・大量の瓦等が出土しており、その中に『千光寺』と刻印された平瓦がありました。また、『明治六年西二月 廃寺取調書』に千光寺についての記載があり、文献上からも千光寺の存在が明らかとなりました。

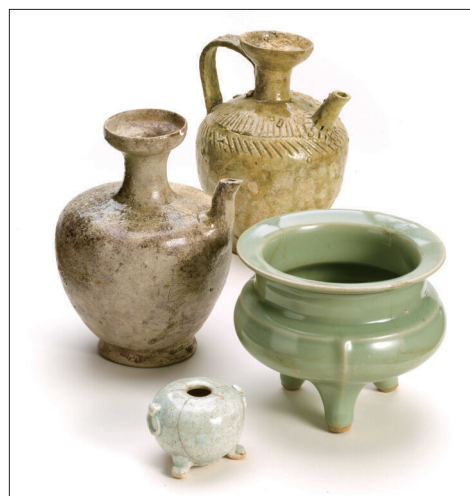


写真6 3号墓出土遺物

左の2点：瀬戸焼水注
手前：青白磁脚付小壺
右：青磁袴腰香炉

奈良文化財研究所撮影

以上、遺跡の内容や伝田原対馬守五輪塔が存在していたことから、この千光寺跡は、田原城主一族の菩提寺と墓地であると考えています。

キリシタン墓碑

平成13年度にその東側隣接を発掘調査したところ、土塀基礎石の続きを確認し寺域が生駒山系から東へ延びる丘陵の先端部まで広がっていることが判明しました。その最東端の土塀の内側（寺域内）において、一辺約63 cm・深さ約21 cmの隅丸方形の土坑を確認し、その中から文字面を上に向けて置いたような状態でキリシタン墓碑が出土しました（写真7）。その表面には、上半部中央にイエスを示す『IHS』の一部と考える『H』の文字とその横線上にゴルゴダの丘を表現していると考えられる『()』、その上部に十字架が刻まれており、下半部には『天正九年 辛巳』・『礼幡』・『八月七日』と刻まれていることから、天

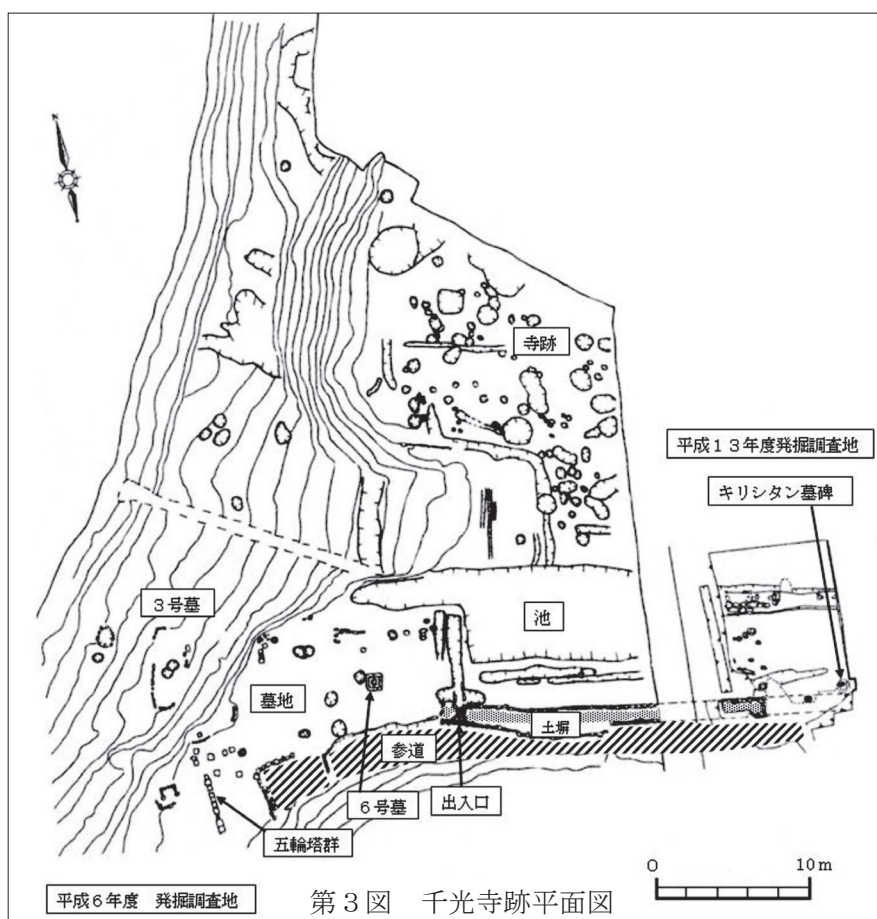
正9年(1581)8月7日に亡くなった『キリシタン礼幡(レイマン)』の墓碑であることがわかりました。レイマンについては、宣教師の1574年の書簡に「三ヶ殿の一元老 Gennro はキリシタンになった。彼は Tauora (田原) の城主で、その改宗は大いにキリシタンの喜びとなり、之が為にその家臣がキリシタンになることが期待されるに至った。一後略一」、1575年の書簡に「聖週と復活祭は三ヶ(三箇)で盛大に催され、甲賀、若江、田原、堺、および fin・・・(解読不能)のキリシタン三百名が集まった。一中略一都に至り、オルガンティーノとともに信長から親切に迎えられた。池田丹後守、三ヶマンショ、結城ジョアン、田原レイマン、その他河内のキリシタン武士も信長に挨拶に赴いた。一後略一」と記されています。このことから1574年(天正2年)に「田原の城主」がキリシタンに改宗し、1575年には「田原レイマン」が織田信長に会っていることがわかります。

発掘調査の結果や書簡の内容から墓碑の人物は、『田原城主田原礼幡』であると考えています。

なおこの墓碑は現在全国で確認されているキリシタン墓碑で最古のものです。



写真7 田原礼幡キリシタン墓碑
(大阪府指定有形文化財)



参考文献

山口 博編『四條畷市史』第一巻(1972年)

四條畷市史編さん委員会編『四條畷市史』第五巻(考古編)(2016年)